

第4章 ROM化について

MPC-684はフラッシュROMを搭載し、オンボードROM化に対応しています。これによりEPROM時代の煩わしさが一掃されました。プログラム編集後のRUNにより自動的にフラッシュROMへ書き込みます。フラッシュROMに書き込まれたプログラムはノイズやバッテリートラブルで破壊されることはありません。MPCは電源投入時にフラッシュROMからSRAM上にプログラムを展開し実行します。

4.1 初期化時について

SRAM上のプログラム、ポイントデータはMPCINITコマンドで初期化されます。フラッシュROMのプログラムはERASEコマンドで初期化されます。装置組み込み後やシステムローダーによるシステムデータ変更後は、MPCINITとERASEを実行して初期化します。初期化後のMPCは英語モードになっています。JPNコマンドで日本語モードに変更してください。

```
#MPCINIT
#ERASE
**
#JPN
#
```

4.2 フラッシュROMの書き込みタイミング

フラッシュROMの書き込みはRUNコマンド実行時です。プログラム編集後RUN無しで電源を切ったりケーブルを抜くと編集データは無効になります。デバッグ時間短縮のためにフラッシュROM書き込みをしたくない場合はRAMコマンドを実行して下さい。その場合、デバッグ終了後には必ずROMコマンドで元に戻しプログラムをフラッシュROMへ書き込み、動作を確認してください。プログラム実行を伴わないフラッシュROM書き込みはFIXコマンドです。

```
#RUN
プログラム整理中!!-整理後ROMに書き込みます。*-----+++++0k
```

4.3 バックアップ変数の代用

フラッシュROMへ書き込まれるのはプログラムと変数です。つまり、変数も電源投入時にプログラムが書き込まれた時点のデータに戻ってしまい、バックアップ変数としては利用できません。バックアップ変数の代用にはポイントデータを使用してください。ただし、ポイントデータはSRAMにバッテリーで保持されているものであり、完全保存ではないことをご承知置きください。

4.4 旧68K互換モード

保守等で、全変数をバッテリーバックアップで使用できた旧68Kと互換性を保つ必要がある場合はRAMコマンドを実行します。この場合プログラムのROM化がされないため、遠隔地での使用については注意して下さい。